



ちょっと難しい質問でしたね『ダメー』というイメージが先行してる矢板、十年後の矢板にどんな事をみなさん望んでいられるでしょうか。

発展して欲しい！

人口が増えて、活気のあるまちに(多数)。矢板は核家族化が進み世帯数が増えているのに人口が増えていない。大家族で暮らせるまちづくりを考へて欲しい。



農業と商業の調和の取れたまちづくり。

商店街が活気づいて欲しい。周囲の市に負けない矢板に。古いものはそのままに程よく発展して欲しい。活気溢れる社会に。

通過都市ではなく人が集まる場所になって欲しい。都市計画・環境線整備

日本一安全な矢板。犯罪が無く安心安全で子どもがどこに行っても聞こえるまちに。

若者が安心して将来を望めるまちに。今ある環境を壊さず開発が進み地元若い人が勤められる環境づくり。自然を大切にしながらまちづくりが進んでいる。特産物をまち全体で集中・共同で取り組む

他人を受け入れる大きな心のある人がいっぱいいるまち。共存共生のまちになって、親切な仲の良い友達を誰もがたくさん作れる。

変わらなくてもいいよ！  
変わらなくていい。このノビノビさがいい。安心してゆったりと、たくさんの方と過ごしたい。仲間もいっぱいいるし地元大好き。田舎暮らしをもっと前面に出すこともいいのでは？この位の人口のまちは空気もきれいで暮らしやすい。

自分達の生活空間はその地域の特性を生かして身の丈に合った暮らしをするのが一番。矢板にはそういった伝統や特有のものがあるのか？あらためて地域を見る必要がある。福祉・教育・健康・運動 高齢者社会になるのでそれに伴った地域づくり。手厚い社会福祉。福祉が充実して病院や福祉施設に行きやすいサポートシステム整備



教育の充実、中高一貫校。矢板の自然と文化が一体となった教育。

矢板を誇りに思える子どもたちがたくさんいるようなまちになって欲しい。地域の公園がいつも子どもたちで賑わっていてノビノビと遊べる環境であって欲しい。子育て中のママさんもスポーツを楽しめる環境づくり！子育て支援の充実したまちに。お年寄が生き生きとスポーツを楽しみ、元気で長生きを目指す場所作り。グラウンド・ゴルフやゲートボール場の整備、設置。

衰えしちゃうの？  
このままいくと廃れてしまう。まち全体が暗い、あきらめムードが漂っている。人口増もなく今のままか、もつと衰退している。

みんなで頑張ってみよう！  
ビジョンを持つとう！  
三年後・五年後・十年後と長・中期の目標を掲げ、確かにまちは変化している、変化しようとしている事を市民が感じることが必要だ。そうでなければ活気はおろか夢も生まれなくなってしまう。大きな変化ではなく、小さな変化を重ねることが必要だ。

どこのまちでも、これからは人口が増えていくことを望んでも仕方がない。ほどほどのまちが持っている様々な資源を活かす事が大事だ。矢板は農村文化が色濃く残っている。豊かな食材を活かしたレストランなどもっと田舎文化を楽しめるまちづくり。無い物ねだりではなく、いま持っているものを活かすまちづくりを。

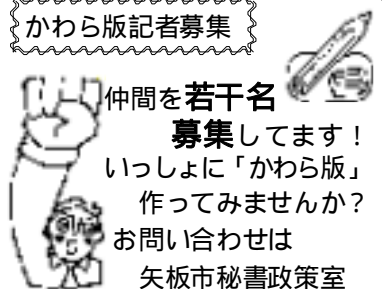
市民力かわら版記者紹介

矢板に暮らし5年が経ちました。今回のアンケートはこれからの矢板暮らしの指針となりました。「矢板の好きなところは？」の答えで多かった「身近な自然」に矢板の良さの答えがあるように思います。矢板が好きで矢板の自然を大切にしている人、たくさんの人の姿を皆さんに紹介します。白田芳雄

私はスポーツ大好き人間です。若い頃はテニス・野球、40歳を過ぎてからはソフトボール。関東大会にも出場しました。趣味はカメラを持って風景写真を撮ること。70歳に手が届く今日、昔とった杵柄の印刷を生かし、矢板の「かわら版」編集委員頑張ります。仲島寿一

かわら版記者募集

仲間を若干名募集してます！  
いっしょに「かわら版」作ってみませんか？  
お問い合わせは  
矢板市秘書政策室



仕事の関係で大阪から当地に移住し早30年が経過しました。最近地域活動に参加していると「へえーそんなことあるの？」と知らない事が多くある事に気がきました。これは矢板の情報をもっと市民に提供する必要があります！「かわら版」の発行に参画し、市民の目線でたてまえで無く本音を皆さんにお知らせしたいと思ってます。増田武司

かわら版の記者になって行った今回のアンケート、これは自分自身への問いかけ、しかも大変難しい質問となりました。変わる事の良さ、変わらない事への焦りなど様々ありますが、まずは私自身が矢板をもっと好きになる事から始めたいと思います。高柳真理子

「あれがない、これがない、ここが嫌い」で悲観するより「あれもある、これもある、ここが好き」と宝物探しを楽しんでいる人が矢板にはいっぱいいます。岡本雅和

「かわら版」の発行にともない、いろいろとコンテンツを考え、手間取りながらも紙面づくりに努力してきました。市民との協働のまちづくりを目指すということは私たちの願いです。これからも矢板市の素晴らしさと、誇りを情報発信していければと思っています。村上周司

編集後記  
創刊号はやっとこ・なんとか出来ました。100人アンケートではたくさんの方に快くご協力いただき、ありがとうございました。これからの取材でもたくさんの元気な矢板人に出会えることを期待しております。次号は11月発行予定です。皆さんこうご期待！